

# 共生

奈良県生協連

2016年 10月

NO.102



組合員理事交流会「南医療生協見学」



ピースアクション in なら 講師 中村 桂子氏



福島の子ども保養プロジェクト in なら

## もくじ

ピースアクション in なら2016	1
福島の子ども保養プロジェクト in なら	2
生協組合員理事交流会	
南医療生活協同組合見学	3・4
理事長交流会～Peace now! 奈良報告	5

行政合同会議・奈良県協同組合デーのつどい	6
なら小地域福祉活動サミット	7
環境のページ	8
食品安全・安心懇話会	9
3.11をわすれない	10

ピースアクション  
inなら2016

# わたしたちの未来の選択！ ～核兵器のない平和な世界～

9月17日(土) 奈良県社会福祉総合センター 5階大会議室

9月17日、奈良県社会福祉総合センターにおいてピースアクションinならを開催しました(後援:奈良県、橿原市)。

講師の長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授中村桂子先生が「核兵器をめぐる現状と次世代へのアプローチ」についてお話しされ、リレートークでは被爆者から若い世代まで4人の方がそれぞれの核兵器廃絶と平和の想いを語りました。今年5月に米国オバマ大統領が広島を訪問したことで日本国内でも世界でも核兵器廃絶への関心が一気に高まっている中、参加者65名が世界の核の現状を学び次世代への平和の願いをつなぎました。

開催にあたっては、日本原水爆被害者団体協議会からも「戦争のない平和な世界をともにつくりましょう」との応援メッセージを頂戴しました。

## 中村桂子先生「核兵器をめぐる現状と次世代へのアプローチ」講演のポイント



◆核兵器をめぐる世界の状況：○核兵器廃絶は祈るだけでは実現しません。オバマ大統領の言葉「恐怖の論理から逃れる」には？○世界の核弾頭15350発のうち4000発はすぐに使え、1500発は即発射できる状態。使用の瀬戸際まで行った事も数回あります。ひとたび使われると20億人が飢餓に。○「国家」の安全保障ではなく「人間」の安全保障から考える

「人道的アプローチ」によって核軍縮論議が進んでいます。国連公開作業部会(OEWG)での核兵器禁止条約交渉開始の議論は非常に画期的な出来事。核保有国は参加していませんが圧倒的多数国で圧力をかけることができます。最終文書が賛成68か国で採択されるも日本は棄権。日本ははじめ24か国が核の傘依存国なのです。○世界の過半数が交渉開始に賛成したこの流れを止めることはできません。唯一の被爆国日本の役割は非常に大きいといえます。10月の国連第1委員会が焦点となります。

◆次世代に向けての課題：○長崎でも学生たちの平和についての関心や知識は他の地域と変わりません。国際的な議論の場を知ることで学びや出会い、考えることを大切にしています。このような集会もとても意義が大きいです○核問題は常に変化し、それを変えることができます。被爆国日本が変われば世界が変わるということを是非多くの人に伝えたい。未来はまさしく私たちが選択することができるのです。

## リレートーク「未来を選択するのはわたしたち自身です」



### 参加者アンケートより

- 核問題は動いていることを知り  
明るい気持ちになった。
- 先生のお話で核兵器禁止への道筋が  
明瞭になりました。
- リレートークはそれぞれに  
訴えかけられるものがあり、  
これからがんばろうと思いました。
- 若い人たちが自分たちの問題として  
動いていることがとてもうれしく思った。

### ◆田中 美枝子さん(県内在住の被爆者)

小学1年の夏休みの登校日に長崎市内の小学校で被爆しました。怖くて防空壕には入らず死の灰がちらちらと降る中、ようやく母のもとに逃げ帰りましたが家はめちゃめちゃで黒い雨が降りました。死体を焼く臭い、惨禍の中の出産など様々なことを見聞きました。多数の人を一度に死なせてしまう原爆も戦争もあってはならないということを伝えていくのが体験した者の使命と思っています。

### ◆山内 美和子さん(ならコープエリア委員)

「ヒロシマの旅」に参加し、これまで行く機会がなかった広島をようやく訪れることができ、想像以上に感じるものがありました。二十歳の時に被爆された方が71年たってもなお強い気持ちで体験を語る姿にも触れました。子どもたちが大きくなったときに核兵器は絶対になくなくてはという思いが一層強くなりました。

### ◆長久 実由さん(奈良県立大学生協学生委員)

大学生協の活動「Peace Now! 長崎」に参加。街のフィールドワークや被爆者の対話形式の講話、平和祈念式典などを通し、五感で原爆や戦争を感じながら自分の意見を述べるできるようになりました。この旅で被爆や戦争を知らない私たちが「わたしの戦争体験」といえる体験ができました。

### ◆山下 桃果さん(奈良県立大学生協学生委員)

平和は、身近に感じる事が一番大事で他人にするのが最もよくない。大学生協の仲間たちと「ピースナウ奈良」を企画、ご近所さんの平和ツアーで奈良にある戦跡めぐり、証言者の声、ワールドカフェ、ポスターづくりと感想交流をしました。たくさんのお話を聞いて、たくさんの感動がありました。これからも伝え広めることを続けていきます。

家族でのびのびと奈良・関西を楽しんでいただきました

## 「福島の子ども保養プロジェクトinなら」

7月29日から8月1日まで「福島の子ども保養プロジェクトinなら」を開催し、福島の子どもたちとご家族（38名12家族）を奈良県にお招きし、家族でのびのびと奈良・関西を楽しんでいただきました。（主催：市民生活協同組合ならコープ、共催：福島の子ども保養プロジェクト、東大寺、近畿労働金庫、奈良ロイヤルホテル、株式会社黄金糖、NPO法人Cキッズネットワーク、奈良県生活協同組合連合会）



- 29日 福島～奈良 奈良ロイヤルホテルでウェルカムパーティ
- 30日 奈良公園（東大寺・柱くぐり・鹿と遊ぼう）、(株)黄金糖で工場見学と飴作り体験、おこづかいゲーム、
- 31日 フリータイム
- 8月1日 「ならの思い出発表会」 奈良～福島

30日は、東大寺の大仏様の大きさに驚き、奈良公園では鹿せんべいを片手にドキドキしながら鹿と触れ合いました。黄金糖では、多くの従業員の方に迎えていただき工場の見学と飴づくりを体験しました。また、畿央大学の学生によるゲームをみんなで楽しみながら交流しました。

31日は、ご家族ごとに、思い思いに関西を楽しんでいただきました。清水寺や金閣寺、奈良町や春日大社・唐招提寺、海遊館そしてUSJなどなど…。

8月1日は、「奈良の思い出発表会」として、3日間の思い出を語り合い交流しました。



奈良公園で鹿とふれあって



東大寺で無病息災を願って柱の穴くぐり



黄金糖で飴作り体験

ワイワイ  
ガヤガヤ♪

### 参加者からは

「私たちの住んでいる町は、比較的放射線量が低いので公園などでの、外遊びさせています。しかし線量がまったく気にならない訳ではありません」「除染は進んでいますが、今夏は校庭の除染土を埋めたものを掘り返し、移送する為校庭は使用出来ないのクラブ活動ができません」「外出、外遊びはモニタリングポストを確認しながら…なので室内で過ごすことが多いです」「4日間とても早く感じました。子どもたちもリフレッシュできました」「年々、保養の数が少なくなっています。短い期間でも保護者や子ども達は、日々のストレスから解放されることが出来ます」「福島のこと、風化させない為に…と言って頂きとても嬉しく思います」…などの感想が寄せられました。

子どもたちからも、「奈良の思い出発表会」で、「鹿はちょっと怖かったけど、せんべいをあげたことが楽しかった」「ともだちがたくさんできた」「大仏を間近でみて大きすぎかった」「また奈良にきたい」などの感想が話され、笑顔いっぱいの4日間になったようです。

（奈良県生協連では、今後も「福島の子ども保養プロジェクト」を応援していきます。）

## 生協組合員理事交流会

# 南医療生活協同組合へ行ってきました!

9月14日(水)生協が協同・連携して地域づくりに取り組んでいる事例を見学しようと、「おたがいさまの地域づくり」を進めている名古屋市緑区にある南医療生活協同組合に、ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良県医療福祉生協の組合員理事、監事と奈良県生協連事務局スタッフ計34名で見学に行ってきました。

施設見学の前に南医療生協本部3階会議室で、常務理事の山口修氏と地域ささえあいセンター次長河内裕子氏から「ささえあい・たすけあい・地域だんらんまちづくり」の説明を受けました。

南医療生活協同組合は1959年の伊勢湾台風の被害を受けた名古屋市南東部で、1961年に308人が参加した小さな診療所からスタートしました。現在、組合員数は愛知県下で8万人を超え、12ブロック、87支部、1236班となり活動を進めています。「みんなちがってみんないい ひとりひとりが輝くまちづくり」を基本理念に、2010年3月に新築移転した南生協病院は、新・南生協病院建設運動推進委員会(通称:千人会議)で、施設建設のために、「どんな病院にしたい?」と組合員や地域住民からの意見を聞き、徹底的に議論を重ね、誰もが自由に集まれるエントランス、フィットネスクラブ、レストラン、石窯パン屋さん、調理室を備えた多世代交流館などがつくられました。また「まちづくり交流会」も昨年12月で5回となり「おたがいさま」のまちづくりを進めています。



玄関前エントランスホールで記念撮影



話される山口常務と  
地域ささえあいセンター河内次長さん

### ～行程～

- 8:30 元気城下町バスパーク 出発  
「ガイヤの夜明け」DVD 鑑賞
- 11:00 南医療生協本部到着
- 11:05 「ささえあい・たすけあい・地域  
だんらんまちづくり」  
常務理事 山口氏 質疑応答
- 12:20 昼食
- 12:50 成瀬専務理事ご挨拶
- 13:10 病院・よってって横丁見学
- 14:00 質疑・応答
- 14:45 玄関前にて集合写真 帰路  
「だんらんにつぼん」DVD 鑑賞



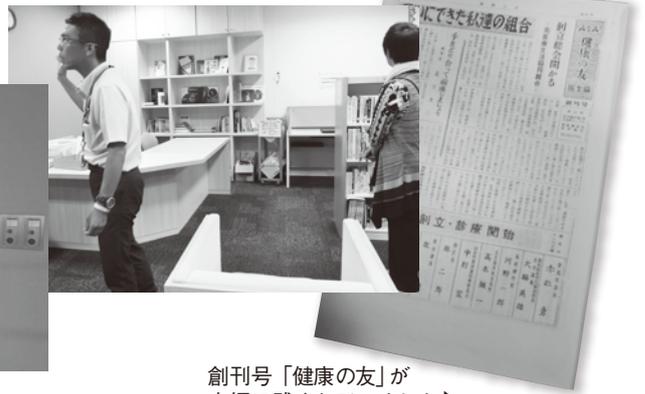
南生協病院

多世代交流館「だんらん」

産後の母子を支える助産所「はあと」



ボランティアで運営する図書室



病児保育室「ここにこ」

創刊号「健康の友」が大切に残されていました▶

オープンした病院隣のサービス付き高齢者住宅と医療・介護・いやし・おいし・文化・交流・すまいの複合施設の複合ビル「よってって横丁」を作る際にも、組合員さんによる会議を重ね、どんな場所にしたいかを話し合いました。組合員によるボランティア活動も26ボランティア541名の登録があり、病院内の総合案内ボランティア、図書ボランティアなど自発的に無償で活動しています。また2015年から「おたがいさま運動」がスタートし、おたがいさまシート637件の生活支援を行うことができました。「くらしの協同」に基づくネットワークづくりは南医療生協のまちづくりそのものであり、今後も地域の人々が主体的に参画する地域包括ケアづくりを進めていきたいと話されました。

昼食時には成瀬幸雄専務理事がごあいさつにお越しくださいました。その後生協病院とよってって横丁を4つの班に分かれ見学させていただき、見学後会議室に戻り松下繁行常務理事も加わり意見交換させていただきました。



成瀬専務



お昼からは松下常務も参加いただきました

南医療生協は班活動を大切にされておりご近所さんや趣味の集まりといった気軽に集まる班をつくり、年に1万回以上の班会が開催されているそうです。また、くらしの協同の営みが苦手な男性をなくそうと班会「男塾」をつくり、男性陣の憩いの場づくりもすすんでいます。このような班会が集まって支部となり、愛知県内で87支部が活動。「まちづくり」の担い手となり、まちのさまざまなお困りごとを組合員たちで解決しているのだそうです。

終了後、玄関ホールに移動して集合写真を撮った後、帰路につきました。バスの中で「座学ではなく実際に現地を体験できとてもよかった」「『地域は宝です。』と言われていたのが心に残りました。」「班にこだわっていることに驚きました。」「自分たちのくらしは自分たちでつくる！カッコいいと思いました。」など参加者全員にひとこと感想をお話いただきました。

実際に現地を訪問させていただきお話をお聞きして、奈良で地域づくりの取り組みをどう進めていくかを考えていく、きっかけとなった一日になりました。



班会お知らせチラシ

# 奈良県生協連理事長交流会

学生委員による

## 「Peace now! 奈良」の報告



奈良県生協連では、4大学生協、3購買生協、1医療福祉生協、1労働者共済生協の計9生協の理事と理事長が交流する「理事長交流会」を、総会以外に、一年に1回開催しています。

今年度は9月8日、奈良ロイヤルホテルにて、理事会の後、開催いたしました。

奈良県立大生協の学生委員が中心となって3生協に呼びかけ、6月12日に開催した「Peace now! 奈良」の取り組みについて、大学生協の学生委員お二人に報告していただきました。



交流会の様子



(左) 長久実由さん (右) 山下桃果さん  
Peace now! 奈良の報告をする2人の県立大生協学生委員さん

### ◆◆理事長交流会プログラム◆◆

- ・あいさつ 奈良県生協連瀧川会長
- ・乾杯・懇親
- ・発表  
Peace now! 奈良報告  
奈良県立大学生協学生委員  
山下桃果さん(3回生)  
長久実由さん(2回生)
- ・9生協の理事長からのあいさつ
- ・閉会あいさつ 奈良県生協連辻専務

理事・理事長の皆さんの中には、学生の報告を、熱心にメモを取りながら聴いている方もいらっしゃいました。

「奈良教育大学は、戦争中は戦争を教える場だった。今は、先生になる人を教える場であることが、意味深い」との感想も出されました。

各生協の抱負やこれからの事なども話され、若い学生委員の参加もあり、和やかな雰囲気の中で交流会を閉会しました。

「広島・長崎・沖縄のことは学ぶが、日常に隠れた戦争のあとがある。他人事ではなく、自分たちの生活範囲の奈良で平和学習に取り組みたくて、今年3月から準備を始めた。3大学(奈良教育大、奈良女子大、奈良県立大)の近所の戦跡をめぐる「平和ツアー」、証言者の声を聞き、大学に帰って興味を持ってもらえようというポスター作りも企画し実施した。『Peace now! 奈良』に取り組んで平和の問題が身近になった。」と山下さん。

「来年は奈良県内の大学はもとより、戦争体験世代、学生のお父さんお母さん世代、学生世代も巻きこんでいきたい」と、山下さんの思いを引き継ぐ2回生の長久さんが、熱く抱負を語りました。

## 8月29日 兵庫県民会館

# 『安心してらせる地域社会づくりをめざして』をテーマに 第28回近畿地区生協・行政合同会議が開催されました

くらしやすい社会をめざし行政と生協関係者が一堂に会し交流する近畿地区生協・行政合同会議が8月29日、兵庫県民会館パルテホールで開催され、奈良県からも消費・生活安全課の勝井康晴主幹と高橋弥生主査及び奈良県生協連が参加しました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室の本間隆生協検査官からは、熊本地震への迅速で臨機応変な支援への感謝とともに、少子高齢化の進行する社会のなかでセイフティネットの一翼を担う組織として役割を発揮してほしいと生協への期待のこぼすを述べられました。

京都大学経営管理大学院長の若林靖永先生による「2050年超高齢社会のコミュニティ構想について」と題する特別報告がありました。若林先生は、「消費社会や家族、人間関係が大きく変わっていく中で、生協の新たな価値をつくる必要がある」とし、元気な高齢者などによる地域のきずなでおたがいに日常生活をサポートするビジネスモデル「集いの館」を提案し、未来の社会における生協のありたい姿を示されました。

その後 ①兵庫県「多様性と連携が織りなす兵庫の地域創生について」②大阪いずみ市民生協「コープの電気事業について」③大学生協京滋・奈良ブロック「大学生協の消費者教育の取組みについて」④消費者支援機構関西「差し請求訴訟から被害回復へ」——の各報告があり、内容について質問や意見が活発に交わされました。



# 第24回奈良県協同組合デーのつどいが開催されました

県内のJAグループ、森林組合、生協の3つの協同組合が参加する「奈良県協同組合連絡協議会」による「第24回奈良県協同組合デーのつどい」が、7月15日、ホテルリガール春日野で開催されました。このつどいは全世界の協同組合員が心をつなげて運動の発展を祝い、平和とよりよい生活を築くために、毎年7月第1土曜日の「国際協同組合デー」にちなみ開かれているものです。会場には協同組合関係者116名が集い、協同組合運動の意義を確かめました。

協議会委員長で奈良県農業協同組合中央会会長の中出篤伸氏の開会挨拶のあと、来賓を代表して奈良県くらし創造部消費・生活安全課の姫野隆昭課長からご祝辞をいただきました。

今回は農業経済学や農業協同組合論がご専門の滋賀県立大学教授の増田佳昭先生を講師にお招きし「協同組合の現代的意義」と題する講演が行われました。増田先生は、「今の日本の暮らしは格差の拡大、重い教育費負担など厳しいものになっているが、協同組合はニーズを事業化して暮らしを良くしていきます。協同組合のメンバーの共通の目的は希薄化しているが、『利用する』『かかわる』ことを重視し、組合員とのつながりをもとに理想的な事業運営サイクルをつくっていくことが求められています。」とこれからの協同組合の方向性を示されました。

講演の後の懇親会では、吉野共生プロジェクトのもとに取り組まれているハートフルコープよしの宅配水事業の紹介など、協同組合らしい取り組みが紹介され、県内農産物を使った料理を楽しみながら親睦を深めました。



日本生協連・福祉事業推進部主催

## 「関西エリア新地域支援事業実践交流会」が 開催されました

介護保険制度改定に伴う自治体の新地域支援事業スタートで、全国の生協では行政訪問をしながら実情を共有して連携を図る取り組みをすすめています。その実践事例を学ぶため8月10日、生協会館新大阪において日本生協連福祉事業推進部による関西エリアの実践交流会が開催され、福祉事業や活動に携わる生協関係者約50人が集まりました。



はじめに埼玉県和光市の保健福祉部福祉政策課長の阿部剛氏による基調講演がありました。和光市は地域包括ケアシステムの先進的实践自治体として全国より注目を集めています。講演では、記名式の調査によりきめ細かい高齢者の生活実態とニーズを把握、分析して介護保険計画を策定したことや、「やってあげる介護」ではなく「できることは自分で」を大切にする自立支援を理念に、効果的なケアプランを考える地域ケア会議の取り組みなどの紹介がありました。

また、コープしがの「実践報告」、京都生協の「いつまでも自分らしくを協力の力で!」に続き、奈良県生協連から辻専務が「県社協との連携による生活支援サービス・活動のネットワークづくり」について報告しました。この後、参加者によるグループディスカッションが行われ、それぞれの事業の進捗や課題について交流しました。

### 奈良県生活支援サービス・活動連絡会の活動

## お互いさまで助け合う「生活支援活動」の実際を交流

8月27日 奈良県社協主催 なら小地域福祉活動サミット第1分科会で

8月27日、奈良県社会福祉総合センターで、奈良県社会福祉協議会主催（共催：奈良県）の第5回「なら小地域福祉活動サミット」が開催され、県内で福祉の活動にたずさわる団体や個人、専門職約400人が集まり「人がつながり、まちを元気に!」をテーマに交流しました。前半の全体会で基調講演があり、講師の東京大学社会科学研究所教授の玄田有史氏が「希望のつくり方」についてお話しされました。

午後からは4つの分科会があり、第1分科会は昨年発足した「奈良県生活支援サービス・活動連絡会」の運営で「お互いさまで助け合う『生活支援活動』の実際」についてパネルディスカッションが行われました。大阪府立大学教授の小野達也さんをコーディネーターに、「サポートしらかし」代表の井上日磨美さん、川西町住民参加型在宅福祉サービス「サポート川西」の宮崎恒子さん、「コープたすけあいの会」事務局の前川道子さんの3人がそれぞれ実践報告をしました。住民目線で共感を大切にしながら進める活動の様子が報告され、運営上の工夫や継続のための課題、担い手などについて会場からも質問や意見が出され、お互いの活動をすすめるポイントの交流が行われました。



サミットでは、このほかに「みんなのいい場所、出番のある地域一場の持つ力」、「その手があった!世話人も楽しむための5つのコツと方法」「県域における小地域福祉活動の活性化に向けて」をテーマに分科会が開催されました。



# 「ぷろぼの福祉ビル」

奈良県初CLT(直交集成板)工法

## お披露目式に出席

障がい者就労支援をされている「社会福祉法人ぷろぼの」が、今年7月に奈良県産木材を使用し、CLT(直交集成板)工法としては奈良県初の「ぷろぼの福祉ビル」~Fellow Ship Center~を建てられました。

お披露目会が、2016年7月29日午後15時に開催され、奈良県生協連も辻専務理事が出席しました。

障がい者の就労の場を提供しているならコープの森理事長が来賓あいさつ。建物の説明があった後、懇親会も1階の「ぷろぼの食堂」で開催され、福祉分野や環境分野、障がい者就労支援などの団体やNPOや生協など、様々な分野の方が交流しました。



近鉄新大宮駅より徒歩5分。  
市街地に建設されたぷろぼの福祉ビル



懇親会の様子

1階の「ぷろぼ食堂」では異業種間交流がたくさん生まれていきそうです。

### CLTとは?

CLTとは、Cross Laminated Timber (クロス・ラミネイティド・ティンバー)の略で、欧州で開発された工法。CLTは板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネルのこと。平成25年12月20日に日本農林規格(JAS)として、直交集成板の名称により制定され、平成26年1月19日に施行されました。一般的によく知られている集成材は、張り合わせる板の繊維方向が並行方向に張り合わせるのに対して、CLTは、繊維方向が直交するように交互に張り合わせていきます。(CLT建築推進協議会HPより)

藻谷浩介氏の「里山資本主義」で真庭市の銘建工業のCLTが有名になり、林業活性化の視点からも、木材の新たな活用方法として、各地で注目を集めています。短い建設期間、断熱性と高い省エネ効果、優れた耐震性などでも注目されています。

# 「自然エネルギー学校・なら2016」開催

場所：ぷろぼの福祉ビル5階会議室



「自然エネルギー学校・なら2016」開催のご案内

自然エネルギー学校  
なら2016 開催概要

開催日時：10月12日(水) 13:30~17:00  
会場：ぷろぼの福祉ビル5階会議室  
参加費：4,000円(送料1,000円) 申込締切：10/12(水) 定員：30名(先着順)

0742-34-0043 info@nara-renergy.org

TEL 0742-34-0043 E-mail info@nara-renergy.org

奈良県生協連が支援する「一般社団法人地域未来エネルギー奈良」が昨年に引き続き、前述の「ぷろぼの福祉ビル」にて第1.2回の講座が開催されます。制度の改正や電力小売り自由化など、自然エネルギーを取り巻く状況も変化してきています。自然エネルギーを取り巻く状況に関する最新情報を共有すること、卒業生同志の交流や意見交換を深めること、さらに担い手を広げ、少しでも深化・具体化することを目的に「自然エネルギー学校・なら2016」が開催されます。

今年度も、岡山県西粟倉村で、小水力発電や木質バイオマス利用に取り組む様子を見学します。

TEL 0742-34-8566 E-mail info@nara-renergy.org

## 第26回奈良県食品安全・ 安心懇話会が開催されました

9月6日ホテル リガーレ春日野 飛鳥の間にて、今年度第1回目の奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。

委員が一部入れ替わり、一般公募委員3名を含め14名の委嘱式が行われました。高谷幸公益社団法人日本食衛生協会学術顧問が座長に就任され、生協からはならコープの森宏之理事長が引き続き流通代表の委員となりました。

平成27年度の奈良県食品衛生監視指導結果、食の安全・安心行動計画(平成27・28年度)、奈良HACCP自主衛生管理認証制度・導入実態調査結果、なら食に関するリスクコミュニケーションの実施結果について、意見交換がされました。奈良県HACCP普及推進についてはできるだけ早期に認証企業が出てほしい、また奈良県内企業、団体向けの広報活動を積極的に進めてほしいと意見が出されました。



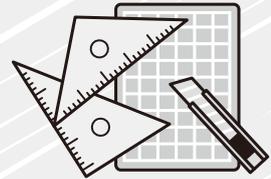
(写真提供：奈良県消費・生活安全課)

### 奈良県HACCP自主衛生管理認証

HACCPとは、国際的に認められた食品衛生管理手法です。欧米を始め多くの国で導入が進み、国際標準としての地位を確立、平成27年7月1日より奈良県版としてHACCPより取り組みやすい「ならハサップ」がスタートしました。

## 特定非営利活動法人なら消費者ねっと

### 夏休み工作教室



説明する講師の千葉さん



組み立てた後、思い思いの色をぬりました

奈良県金融広報委員会とNPO法人なら消費者ねっと共催で、夏休み工作教室を開催しました。8月23日には奈良県社会福祉総合センター6階にて子ども10人保護者5人、8月24日には奈良市ボランティアインフォメーションセンター1階にて子ども8人保護者6人の方が参加しました。

段ボールに書かれた線に沿って折ったり、外したりハサミを使わず組み立て式の「はしご車」の貯金箱をつくりました。低学年の子ども達には少し難しかったようですが、同伴の保護者に手伝ってもらいながら作っていました。最後に思い思いの色を塗って貯金箱を完成させました。その後、お金のクイズにみんなで挑戦しました。参加した子どもは「貯金箱をつくるのはすごく楽しかったです。お金のクイズは今まで知らなかったことが知れて勉強になりました。」「とても楽しくてお金の大切さなどが改めてわかりました。」「楽しかったです。貯金箱にお金をためます。」などアンケートに書いてくれました。

子ども達が直接お金を支払ったりする機会が少なく、お金への関心を持つ機会が減ってきています。今回の貯金箱作りとゲームでお金に対する興味を持ち、正しい知識や健全な金銭感覚を養う第一歩となればと思います。

# 3.11を忘れない

みやぎ生協から  
被災地・宮城のいまを  
お伝えします

## 在宅被災者ひとり一人の 復興が果たされるまで

2016年9月6日

2015年7月号共生で、壊れたままの家に我慢して住み続ける「在宅被災者」についてお伝えしました。それから1年。状況はほとんど変わっていません。Kさん(石巻市)の家は雨漏りがひどく、使える部屋は2部屋だけ。「家族3人分の布団を敷けないから5年間布団に寝てない」と驚くことをサラリと告げます。

在宅被災者が利用できる支援制度は複数あります。しかし内容や手続きの分かりにくさが壁となって利用は進んでいません。「とくに高齢者は、制度の複雑さに戸惑ったり、市に相談して“申請は難しい”と言われてたりするとそこで気力を無くしてしまう」と、在宅被災者の支援を続けている一般社団法人チーム王冠の伊藤健哉さんは言います。

在宅被災世帯を支援するNPO 法人のチーム王冠は昨年11月から仙台弁護士会とともに在宅被災者の実態調査を始めました。「弁護士さんが“これはただ事じゃない”と気づいてくれた。問題を整理し、法律上の課題や必要な手立てを次々に明らかにしていってくれました」。これまでに約200世帯を調査し、再建をあきらめていた在宅被災者に災害援護資金で家屋修繕の道を開くなど、他のケースにも適用可能な解決策を見出しています。

9月からは石巻市と仙台弁護士会が連携して在宅被災者の実情を把握する取り組みがスタート。チーム王冠も仙台弁護士会との連携で課題解決を目指します。

在宅被災世帯は1万2千世帯いると言われていています。自力再建が可能な人もいますが、あと一息の人やどん底から抜け出せないでいる人はまだ多くいます。「実態把握のスピードをあげないと、どんどん高齢化が進み解決が遅れる。ボロボロの家で“震災さえ無ければ”と無念の思いを抱いたまま老いていくのを見るのは忍びない」。伊藤さんはそう訴えます。

在宅被災者の抱えている問題はそれぞれ異なりますが1日も早い復興を待ち望む気持ちは同じです。足を運んで話を聞き、適切な支援を行なう、ひとり一人の実態に寄り添った活動がこれからも続きます。

情報提供／みやぎ生協



地震で壊れた天井。  
夏場はカビやヘド口の臭いで健康被害も出ています。  
(写真提供：一般社団法人チーム王冠 <http://team-ohkan.net/>)



チーム王冠のボランティアセンターと代表理事の伊藤健哉さん。  
ベルトコンベアは支援物資を運び入れる際に使用。  
センターで仕分けし在宅被災者へ配布します。

## 7月

- 6日 関西消費者団体連絡懇談会
- 14日 奈良県生協連第2回理事会
- 15日 第24回奈良県協同組合デーのつどい
- 15日 奈良県農業再生協議会
- 20日 21日 県連活動推進会議(全国版)
- 21日 消費者活動交流会
- 22日 NPO法人なら消費者ねっと理事会
- 23日 吉野共生PJ推進委員会
- 28日 日本生協連関西地連運営委員会
- 29日 奈良県労済生協総代会
- 29日 8/1日 福島の子ども保養プロジェクト in なら

## 8月

- 10日 「地域支援事業実践交流会」
- 26日 NPO法人なら消費者ねっと理事会
- 27日 奈良県社協主催「なら小地域福祉活動セミナー」
- 29日 第28回 近畿地区生協・行政合同会議
- 31日 平成28年度近畿ブロック地方消費者フォーラム 第1回実行委員会

## 9月

- 6日 奨学金制度と教育費を考える学習会
- 8日 奈良県生協連第3回理事会
- 8日 奈良県生協連会員生協理事長交流会
- 10日 11日 適格消費者団体連絡協議会
- 14日 組合員理事交流会(南医療生協見学)
- 16日 奥大和ゆうゆう祭開催協議会
- 17日 ピースアクション in なら2016
- 23日 NPO法人なら消費者ねっと理事会
- 29日 日本生協連関西地連運営委員会

## お知らせ

### 第27回 奈良県生協大会

#### ひとりぼっちをつくらない ～子どもたちの未来と共生社会を考える～

誰もが受け入れられ大切にされる社会に向けて、地域社会の一員として協同組合が大切にすることは

講師：社会活動家・法政大学教授 湯浅誠氏 (リレートークコーナーあり)

開催日時：2016年 12月3日(土) 14:00～17:00

開催場所：奈良商工会議所 5階 大ホール

申し込み：奈良県生協連 0742-34-3535



## 編集後記

築25年目のわが家もそろそろ補修が必要な時期に差し掛かり、メーカーの人に一生ものだからと勧められ目立たないところから少しリフレッシュをしています。一生ものという意味では、家よりもまず自分の体のリフレッシュが先では？と思いつつながら。

(由)

「地域は宝」「つながりは宝」「みんなちがってみんないい」……。関わる人たちがそのことを普通に言える組織の文化とその具現に触れ、改めて「生協とは」について考えるきっかけになりました。

(和)

今年台風が変な動きで、そして甚大な被害をもたらしました。あきらかに気候変動が急速に進んでいる。パリ協定で実効性ある対策を急げ！取り返しがつかないターニングポイントがすぐそこに。

(順)

暑かった夏もそろそろ終わりを迎え、朝晩秋の気配を感じるようになってきました。先日高円山に行きました。まだ紅葉の季節には早かったです。トレッキングを楽しんだ81歳のお二人に出会い元気をいただきました。私もあのお二人のように軽やかに齢を重ねていきたいものです。がんばろっ！

(佳)